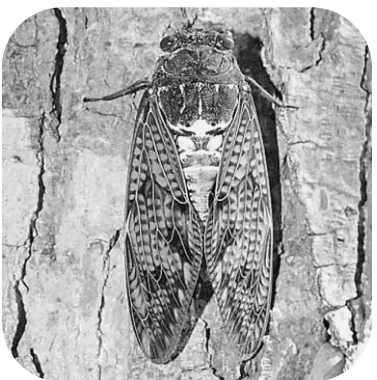




短い命を精一杯生きる アブラゼミ

「ミンミンミン、ジージー、オーシイツクツク…」真つ青な夏空の下、あちらこちらからセミの鳴き声が聞こえてきます。市内には6種類のセミが住んでいます。その中でもアブラゼミは最もよく見かけます。夏の暑さをさらに増す「ジー」という鳴き声と、茶色の羽が特徴です。



夏を迎え最初に姿を見せるのはニイニイゼミです。小さなセミで「チー」というとても高い声で鳴きます。次に現れるヒグラシは、杉林などの暗い林を好み、朝夕に「カナカナカナ」という寂しげな声で鳴きます。夏の盛りにはアブラゼミやミンミンゼミも登場してにぎやかになります。小さな体からどうしてあのような大きな鳴き声が出るのでしょうか。オスのセミの腹の中は、空っぽの共鳴室になっていて、そこで音を響かせて大きくしています。メスは腹の中に卵を産むための仕組みがあるので、鳴くことができません。アブラゼミのオスは精一杯鳴いてメスを誘います。やがて交

尾して、メスは木の枝に産卵します。卵からかえった幼虫は木を降りて土の中に入り、木の根に口を差し込んで汁を吸います。暗い土の中で5年間を過ごした後、地上に出てきて殻から脱け、出た大人のセミになりますが、その後の命はわずか1〜2週間ほどしかありません。

ツクツクボウシの「オーシイツクツク」が聞こえてくると学校の夏休みも残り少なくなり、宿題が気になる時期になります。セミは種類によって現れる時期、鳴き声、住む場所や好む木、鳴く時間帯などが決まっています。夏休みの自由研究で調べてみるとおもしろいでしょう。